

区立図書館の蔵書充実についての陳情

平素より区政の発展のためにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

さて、標題の件につき、下記のとおり陳情いたします。

《陳情の趣旨》

本区の区立図書館における蔵書数を拡充していただきたく、必要な施策の検討・実施を求めます。

《理由》

1. 蔵書数が23区内でも極めて少なく、実質的に“23区蔵書数ワースト1位”である

東京都公立図書館調査によれば、令和7年度の本区の蔵書数は23区中22位と下位に位置しております。これは首位である杉並区の蔵書数と比較すると、3倍以上の差があります。さらに23区内蔵書数が最下位である千代田区に、日本最大の蔵書数を誇る国会図書館があることを踏まえると、実質的にはワースト1位と評価せざるを得ません。

2. その上で蔵書数が大幅に減少している

令和3年と令和7年の蔵書数の増減を確認すると、台東区では16,796冊の蔵書が減少していることがわかります。

さらに23区のうち、直近5年間で1万冊単位の蔵書が減少しているのは9区のみで、5年間の蔵書数ワースト5位内だとこの単位で減少しているのは豊島区と本区のみです。

しかし豊島区については、令和7年度に約7万冊の蔵書削減を集中的に実施した特殊要因が大きく影響しています。令和6年度時点では同区の蔵書数はむしろ前年より増加しており、恒常的に蔵書を減らしているわけではありません。

このため、特殊要因を除いた蔵書数ワースト5位以下の実質的な蔵書減少区は本区のみであり、本区が構造的に蔵書数を減らし続けている唯一の区であることが明確です。

3. 多くの他区では5年以内に1万冊以上の蔵書増加を行っている一方、本区には同規模の拡充が見られない

区立図書館の蔵書推移を比較すると、23区中15区が直近5年間で1万冊以上の蔵書を増加させています。

これに対し、本区ではこの期間に1万冊規模の増加が一度も行われていません。

これは令和7年度の蔵書数下位5区の中では本区のみとなります。

この差は単なる年度方針の違いではなく、他区が継続的に市民の学習基盤を強化しているのに比べ、本区だけが都市全体の潮流から取り残されていることを示しています。

区民の知識アクセス環境を改善するためにも、早急な蔵書の拡充が必要と考えます。

4. 過去5年間の図書館費・図書費においても、継続的に下位に位置している

本区の図書館関連予算について、令和3年～7年の過去5年間の推移を他区と比較したところ、図書館費（総額）、図書費（資料購入費）ともにワースト5位以内を継続しています。短期的ではなく5年間連続で下位に留まっている点は、構造的に改善が進んでいないことを示すものです。

5. 人口・面積比の問題ではない

人口規模・面積の比較的近い文京区（東京都公立図書館調査より：文京区人口 235,380 人、総面積 11.29 km² 台東区人口 216,696 人、総面積 10.11 km²）と比較しても、令和7年度における本区の蔵書数は文京区と比較して 559,063 冊も少なく、単なる人口・面積比だけではこの乖離を説明できません。

6. 教育的・社会的観点からも蔵書増加の必要性が高い

蔵書数が少ない区は他にもありますが、図書館が充実している自治体は、教育基盤の強化にとどまらず、近年の研究では要介護者数が少ない傾向にあることも指摘されています。蔵書拡大は、長期的な社会保障費の抑制にも寄与し得る施策です。

参考資料：京都大学大学院医学研究科 社会疫学分野、【論文紹介】図書館の本が多い街ほど健康長寿の傾向～蔵書が人口当たり1冊増えると要介護リスク4%減に相当～（非常勤講師 佐藤）. 2025/5/20. <https://socepi.med.kyoto-u.ac.jp/blogs/8730>. (2025/11/23 閲覧)

《改善策の提案》

本区の蔵書数が現状のままでは、予算を大幅に増額しない限り速やかな改善が難しいことは理解しております。しかし、必ずしも多額の新規予算を必要としない施策によって、区民の利便性を高めながら蔵書を増加させることは可能です。

以下に、実現可能性の高い改善策を提案いたします。

＊ 区民からの本の寄付を大規模かつ長期的に呼びかける仕組みの構築

本区において蔵書を増やす最も低コストな方法は、区民のよる寄付の受け入れ体制を強化することです。具体的には、以下のような取り組みが考えられます。

- ・広報紙・図書館だより・SNSを通じての継続的な寄付呼びかけ
- ・寄付受付イベントの定期開催（地域センター・図書館での「本の寄付デー」など）
- ・寄付本の選定における明確な基準を提示し、寄付のハードルを下げる
- ・子ども向け図書の寄付キャンペーンなどテーマ型募集の実施

これらは追加の継続費用をほとんど必要とせず、区民参加型の図書館づくりに寄与する施策です。多くの自治体で実績があり、費用対効果が高い取り組みとして知られています。

＊ 他区との連携を強化し、他自治体の蔵書にアクセスしやすくする制度の整備

本区でも他区の資料を予約して取り寄せる仕組みは存在しますが、現状では下記の課題があります。

- ・ 取り寄せに時間がかかり、迅速な利用が困難
- ・ 区内9館のうち、約半数の4館では受け取り不可となっており利便性が低い

これらの改善として、以下を提案します。

- ・ 受取館の拡大（原則として全館で受取可能とする）
- ・ 提携先を増やし、検索・予約システムを省力化（各大学図書館、国際子ども図書館など）
- ・ 取り寄せ頻度の増加・配送体制の改善

こうした取り組みにより、区民は事実上「他区の蔵書を含めた大規模な図書ネットワーク」にアクセスできるようになります。蔵書数不足による不便さを補う即効性の高い施策です。

＊ 他区の成功事例を参考にした、外部リソースの積極的活用

蔵書数ワースト5位に入る区の中でも、豊島区は図書館機能の拡充に積極的に取り組んでおり、大学から資料提供を受けるなど多様な施策を展開しています。

同規模区でありながら改善実績を上げている自治体の事例を参考にすることで、本区でも似た戦略を導入できる可能性があります。

参考資料：豊島区. 豊島区図書館経営協議会. 2025/9/26. <https://www.city.toshima.lg.jp/l41/kuse/shingi/kaigichiran/kee/index.html>. (2025/11/23閲覧)

以上の理由から、本区における図書館蔵書数の拡大を強く要望いたします。

区民の知的基盤の向上と将来の社会的負担軽減のためにも、ご検討をお願い申し上げます。

令和7年12月5日

台東区議会議長

石 川 義 弘 殿